

テキサス大学からの便り

Tomio Petrosky
大学院GPアドバイザーボード
テキサス大学オースチン校複雑量子系センター

大学院GPを通して交流締結したテキサス大学オースチン校複雑量子系センターのE.C.G. Sudarshan教授が2010年度のディラック賞を受賞され、これを祝してテキサス大学のタワーが全塔オレンジ色にイルミネーションし、大学全体での祝賀会が10月26日にありました。オレンジ色はテキサス大学の大学カラーです。全塔がオレンジ色に輝くのは、かつて私の師であるテキサス大学のIlya Prigogine教授がノーベル賞を受賞したとか、大学のフットボールチームが全米チャンピオンになったときなどの、数少ない特別に記念すべき時だけです。この賞はこの宇宙の構造を解き明かすための4つの基本的な力の一つである弱い相互作用に関するSudarshan教授の業績に対して与えられました。Sudarshan教授はインド生まれのアメリカ人です。教授は他にも、量子光学の理論や、光より速く走るタキオンや、量子ゼノン効果など、著名な分野の先駆者として次々に偉大な業績を残された方です。私も物理学を通してのみならず、個人的にも親しくお付き合いして頂いています。たまたま、大学院GPの交換学生として大阪府立大学の物理系の大学院生の山本康男君と橋本一成君もこの時期にオースチンに滞在しており、Sudarshan教授に祝辞を伝えることが出来ました。教授は今年の夏を含め日本に何度も来られています。そして、まだ湯川秀樹教授が京都大学の基礎物理学研究所に居られた頃、湯川教授とインドと日本の哲学について熱っぽく語ったことを何時もご自慢にしておられます。また、Sudarshan教授は大阪府立大学とテキサス大学の交流に大変興味を示しておられます。

写真は、2009年の春に大阪府立大学の物理系の先生方がSudarshan教授のオフィスを訪れたときの写真と、今回の受賞でテキサス大学のタワーがオレンジ色に輝いたときの祝賀会の教授と奥様の写真です。

